

政府発表の文書は、3月31日現在、次の8点に限られているので、さまざまな憶測や、噂が流れています。しかし、それらは出所からしてほとんど信用できず、また信憑性が薄いので、政府発表以外の資料は使用することはできません。まずは、これまでにキューバ政府によって発表された8つの文書を徹底して分析してみましよう。

### ①09.03.03 Nota Oficial 政府発表

2008年2月24日のラウル国家評議会議長提案に沿って、国家評議会は、党政治局と事前に相談し、3月2日、次の移動、任命、組織の改革を決定した。

1. José Luis Rodríguez 閣僚評議会副議長、経済・計画相を解任、後任に Marino Murillo Jorge を閣僚評議会副議長、経済・計画相に任命。同氏の国内商業相の任務を解任。
2. Otto Rivero Torres 閣僚評議会副議長を解任。担当の投資計画が終了したことによる。Ramiro Valdés Menéndez がその調整と管理を担当。
3. 貿易省と投資省を統合。Rodrigo Malmierca Díaz を同相に任命。Raúl de la Nuez Ramirez 貿易相を解任。
4. 食料工業省と漁業省を統合。María del Carmen Concepción González を大臣に任命。同氏の書記局員を解任。Alejandro Roca Iglesias, Alfredo López Valdés 各大臣を解任。
5. Felipe Pérez Roque 外務大臣を解任、後任に Bruno Rodríguez Parrilla 同省第一次官を昇格。
6. Georgina Barreiro Fajardo 財政・価格相を解任。後任に Lina Pedraza Rodríguez を任命。なお、Lina Pedraza Rodríguez の P C C 書記局員を解任。
7. Fernando Acosta Santana 鉄鋼産業相を解任、後任に Salvador Pardo Cruz 旅団将軍を任命。
8. Jacinto Angulo Pardo 第一副国内商業相を大臣に昇格。
9. Alberto Morales Cartaya 労働・社会保障相を解任、Margarita Marlene González Fernández 同省第一次官を任命。
10. José M. Miyar Barruecos 国家評議会書記を解任し、科学技術環境相に任命。
11. Homero Acosta Alvarez 議員を、臨時国家評議会書記に任命し、次回国会の承認に付す。その役割は、憲法 89, 90, 93 条に従い、国家評議会議長、第一副議長、諸副議長、その他の評議会議員を補佐することにある。その職責は国政でなんらの決定権ももたず、国家指導部でなんらかの主要な役割をもつものでもない。
12. Carlos Lage Dávila 閣僚評議会書記を解任し、José Amado Ricardo Guerra 旅団将軍を後任に任命。その役割は、憲法 97 条と現行規定に従い、閣僚評議会議長、第一副議長及びその他の閣僚評議会議員の活動を補佐することにある。したがって、その職責は法的に政府の政策の決定でなんらの決定権ももたず、政府の決定でなんらかの主要な役割をもつものでもない。

この政治局と国家評議会の決定で 2008 年のラウル・カストロの発言「制度性は、政治面での革命の弱点であり、その改善に恒常的に取り組まなければならない。われわれが完璧

に行ってきたとは思わない」の有効性を再確認する。以上のことから、引き続き政府の構造を縮小し、効率をあげることを検討する必要があった。

#### ②09.03.03 グランマ紙、閣僚評議会副議長 6名のリストを掲載

ラミーロ・バルデス・メネンデス、ウリセス・ロサレス・デル・トロ、ホルヘ・ルイス・シエラ・クルス、ホセ・ラモン・フェルナンデス・アルバレス、リカルド・カブリサス・ルイス、マリーノ・アルベルト・ムリージョ・ホルヘ  
ペドロ・ミレ及びオスマニ・シエンフエゴス前副議長は掲載されず。解任報道は、3月24日に政府広報で行われて。また、従来あった閣僚評議会執行委員会副議長のポストは明示されなかった。

#### ③09.03.03 フィデル、省察「閣僚評議会における賢明な改造」を執筆。以下大要。

・・・更迭された閣僚の大半は、私が提起したものではない。ほとんどは、党か国の指導部によって提案されたもの。私は、そうした仕事を決して行ったことがない。人間の英知と虚栄心を過小評価したことはない。

新たに任命された閣僚は事前に私に相談された。しかし、いかなる基準も押しつけなかった。私は、ずっと以前から権力の特権を放棄したからである。

2人のだれも決定になんらの反対も表明しなかった。個人的な資質が欠けていたわけではまったくなかった。理由は別なものであった。権力への安住が、いくらかの犠牲心を忘れさせ、野心をかきたて、はずべき役割に導いたのである。国外の敵は、彼らに大きな期待を寄せたのである。

#### ④09.03.05 ラウル宛てラへの手紙（自己批判書）。以下大要。閣僚評議会書記局の便箋を使用。

ラウル・カストロ同志

ラウル同志

キューバ共産党中央委員、政治局員、国会議員、国家評議会議員、国家評議会副議長の職責を辞職する。

犯した誤りを認め、責任を取る。

政治局会議で行われた分析は正しくかつ深いものであることを認める。

あらたな職責で、これまでと同じく革命、党、フィデルおよび貴下に忠実である。

兄弟的に

カルロス・ラヘ・ダビラ

#### ⑤09.03.05 ラウル宛てフェリーペの手紙（自己批判書）。以下大要。

国軍将軍ラウル・カストロ同志

愛するラウル同志

政治局会議の決定にもとづいて、国家評議会議員、国会議員、キューバ共産党中央委員の職責を辞職することを決定したことを連絡する。

同会議で分析された犯した誤りを完全に認め、私の全面的な責任を取る。

引き続き、忠誠心と謙虚心をもって革命を擁護し、革命の原則と理念を常に徹底して守っていく。

繰り返し、フィデル、貴下、わが党への忠誠を表明する。

不一

フェリーペ・ペレス・ロケ

#### ⑥09.03.04 レミレス・デ・エステノス国際局長の解任

キューバ共産党中央委員会国際局長、キューバ共産党書記局員のレミレス・デ・エステノス国際局長、書記局員が更迭されていることが、間接的なグランマ報道で分かった。

09.03.04 ラウル、セラヤ・ホンジュラス大統領と会見、マチャード・ベントウーラ、Jorge Martí Martínez 中央委国際局長同席と報道されたからである。

#### ⑦09.03.24 ペドロ・ミレ、オスマニ・シエンフェゴスの閣僚評議会副議長の解任。

政府公報で、ペドロ・ミレ、オスマニ・シエンフェゴスが閣僚評議会を解任されたと、解任理由を述べないで報じる。

#### ⑧09.03.24 フィデル、省察「帝国に奉仕するウソ」を執筆。

フィデル、この省察にて、ペドロ・ミレ、オスマニ・シエンフェゴスは、3月24に解任が発表されたが、それぞれ健康に優れず、ずっと以前から活動を停止しており、ラウルが解任したのではない、そう報じたロイター通信とEFE通信は、米国に奉仕するものだと批判。

### 准公式文書

#### 09.03.18 ブルーノ・ロドリゲス外相の記者会見

ラへ、フェリーペとも共産党の党籍を維持。二人の解任理由は、政府発表どおりで、それで十分説明されている。キューバの外交政策は変わらない。

#### 09.03.25 アベル・プリエト文化相の記者会見

ラへ、フェリーペとも共産党の党籍を維持。閣僚の交代は、迅速かつ非官僚主義的に事務を処理するためのもの。両名とも誤りを認めている。

### 所感と分析

上記の8つの文書、すなわち政府発表でも、フィデルの省察でも、ラへ、フェリーペの自己批判書でも、具体的な誤りの内容は、その誤りがすべての職責をなく奪するほどの重大な誤りであるにもかかわらず、なんら述べられていません。また、改革路線の違いであることもまったく述べられていません。

政府発表の①文書で人事異動は、12件、うち解任された閣僚は7名、閣僚評議会副議長は4名。解任について具体的な理由を示唆する説明は、第12項、ラへに対するもののみです。

解任の理由は、次の3つに分類できるでしょう。

① 省の統合によるもの、すなわち貿易省と投資省、食料工業省と漁業省を統合したこと

- から、元の閣僚が一名解任されたもの。政府声明 3、4。
- ② 在任が長期にわたり、以前から更迭が考えられていたもの。政府発表 1、2、6、7、8、9。
  - ③ 執務上の問題点があり、解任されたもの。政府発表 5、12。ラヘ、フェリーペ。

歴史的に、これまで、キューバ共産党内では3つの党内紛争がありました。

一つは、1962年社会主義革命統一党（PURS）の結成過程で、革命統一組織（Organizaciones Revolucionarias Integradas-ORI）の中で、旧人民社会党のアニバル・エスカランテがセクト主義に陥り、各県、最小行政区の委員会の書記長は、人民社会党の党員を起用し、フィデルは、これをTV演説で公然と非難したことがあります。しかし、これはセクト主義の域を越えず、フィデル、ラウルの権力との権力闘争ではありませんでした。

二つ目は、88年のオチョア事件がありました。これはオチョア、アブランテス内相などが麻薬取引、違法貿易、風紀紊乱など逸脱した行為を行い、政府の重要人物が処罰された事件です。これは、しかし、オチョアの権力志向の問題ではありませんでした。

三つ目は、1992年のカルロス・アルダーナ政治局員、国際問題責任者、思想問題責任者の解任です。アルダーナは、政治局の職責をできるだけ多く占めようとした個人的野心はありましたが、解任の理由は、あくまで金品の不正でした。

これらの三つの党内の紛争は、その原因、実情が即座にかなり詳しく報道されました。しかし、今回のような国民からもっとも慕われ、謙虚さ、指導力、献身性、指導実績が評価されていた二人の有力な幹部が、自己批判書を書き（その内容と文章は一定の指示があったことをうかがわせるほど類似）、具体的理由が明示されず、解任される（辞任という形をとっていますが）ということはありませんでした。

上記の①-③の文書から判断すると、ラヘは、閣僚評議会執行書記の職責で、「憲法 97条と現行規定に違反し、閣僚評議会議長、第一副議長及びその他の閣僚評議会議員の活動を補佐せず、法的根拠もなく、独自に政府の政策の決定で決定権をもっているかのように、政府の決定でなんらかの主要な役割を果たした」という誤りがあり、「権力への安住が、いくらかの犠牲心を忘れさせ、野心をかきたて、はずべき役割に導いた」ということになります。

実際、閣僚評議会執行書記の仕事は、毎週の定例閣僚評議会の開催を待たずに、日々、日常的な決済事項も必要であったでしょうし、それを規定していない憲法や現行規定に不備があったようにも思われます。そうした実務のスタイルをラヘはフィデルの下で15年以上も続けていたわけで、これまでに問題とされなかったものが、この時点で規定を盾にして批判されたものと判断されます。

なお、ラヘは、08年11月のALBA会議に出席せず（カブリサス出席）。12月の国会では発言するも重要な役割は果たさず。2月2日にALBA会議にも国家評議会第一副議長ホセ・マチャードが出席しました。最終的にはラヘは、1月29日、青年の島特別区行政会議を主催したことがグランマ紙で報道されています。

フェリーペは、少なくとも、改造直前の 2 月 27 日まで、連日のように外国要人を空港で迎え、会談をこなしていました。

ラへとフェリーペの自己批判書の中で、フィデルとラウルへの個人的忠誠を誓うことが述べられています。ラへは共産党への忠誠を、フィデルとラウル個人への忠誠の前においていますが、もとより、組織的には革命と党への忠誠で十分でしょうか。

### 閣僚評議会の変更

新閣僚評議会議長・副議長

閣僚評議会議長ラウル・カストロ・ルス

閣僚評議会第一副議長ホセ・マチャド・ベンテウーラ (08.02.24 任命)

閣僚評議会執行委員会書記ホセ・リカルド・アマード・ゲーラ (09.03.02 任命)

閣僚評議会副議長：

ラミーロ・バルデス・メネンデス(09.02.20 任命)

ウリセス・ロサレス・デル・トロ(09.02.20 任命)

ホルヘ・ルイス・シエラ・クルス(09.02.20 任命)

ホセ・ラモン・フェルナンデス・アルバレス (08.04.28 任命)

リカルド・カブリサス・ルイス (08.10.13 任命)

マリーノ・アルベルト・ムリージョ・ホルヘ (09.03.02 任命)

全員が、昨年 4 月以降に任命された人々で構成されることとなります。

従来メンバー：

閣僚評議会議長ラウル・カストロ・ルス

閣僚評議会第一副議長ホセ・マチャード・ベントウーラ

閣僚評議会執行委員会書記カルロス・ラヘ

閣僚評議会執行委員副議長ホセ・ラモン・フェルナンデス・アルバレス

閣僚評議会執行委員副議長オット・リベロ

閣僚評議会副議長ペドロ・ミレ

閣僚評議会副議長ホセ・ルイス・ロドリゲス

閣僚評議会副議長オスマニ・シエンフエゴス

また、カルロス・バレンシアガ国家評議会議長室長（フィデル秘書室長）、国家評議会議員は、昨年 11 月ごろから、公式の活動は報告されていません。

また、06.07.31 テレビで、手術後のフィデルが、遺書的に、カルロス・バレンシアガ議長室長を通じて声明を発表し、「①党書記長、②軍最高司令官、③国家評議会議長・閣僚評議会議長の権限をラウル・カストロに委譲、④国内・国際的医療の推進、ホセ・ラモン・バラゲールが、⑤国内・国際的教育の推進、ホセ・マチャード・ベントウーラ及びエステバン・ラソが、⑥国内・国際的エネルギー革命の推進をカルロス・ラヘ・ダビラが、⑦上記

医療、教育、エネルギー革命に資金を優先し、カルロス・ラヘ、フランシスコ・ソベロン、フェリーペ・ペレス・ロケの3名で運営委員会を結成する」と今後の運営を委託した8名の中で、3名が解任されたこととなります。

こうしてみると今回の人事改造は、かなり大規模なものでした。しかし、その具体的詳細な解任理由は、3月末現在、発表されていず、キューバ人研究者をしても「だれも、何が起きているのかまったくわからない」という状況です。しかし、上記の公表の文書から一定の導きの糸が見えているように私には思われます。

今回の内閣改造が、経済改革にどう影響するかということですが、路線の対立としては発表されていないこと、2人の最高指導者が改革の必要性を認めていること、またその改革の内容、範囲、速度も、2人が決めているという従来の方法からすれば、新しい閣僚であっても問題はないとあるキューバ人研究者は述べていますが、私には、やはり今回、優秀なテクノクラート達が多く解任され（その次官、補佐官なども更迭）、影響は少なからずあるものと思われます。